

橋本正博名誉教授 著作・業績目録

凡例

分類した上で年月順に掲載した。ただし、編著書・講座等の改訂版等で著者・編者等に変更がないものは、初版の項に続けて記載した。分類や掲げ方は便宜に従った。

I 著書

- 『「行為支配論」と正犯理論』（一橋大学法学部研究叢書） 2000.3 有斐閣 全 220 頁
- 『刑法総論』（法学叢書 12） 2015.2 新世社 全 392 頁
- 『刑法各論』（法学叢書 13） 2017.2 新世社 全 576 頁
- 『刑法各論』（法学叢書 13） [第2刷] 2022.3 新世社 全 576 頁（一部改訂）

II 編著書

- 『日本法への招待』 2004.1 有斐閣 全 416 頁 松本恒雄・三枝令子・青木人志との共編著 主な執筆部分：「裁判と法の仕組み」、第1部12「連続射殺魔事件」、第2部（用語集）「刑法」
- 『日本法への招待（第2版）』 2006.11 有斐閣 全 452 頁 松本恒雄・三枝令子・青木人志と共編著 主な執筆部分：「裁判と法の仕組み」、第1部13「連続射殺魔事件」、第2部（用語集）「刑法」
- 『日本法への招待（第3版）』 2014.3 有斐閣 全 460 頁 松本恒雄・三枝令子・青木人志と共編著 主な執筆部分：「裁判と法の仕組み」、第1部13「刑法 連続射殺魔事件」、第2部（用語集）「刑法」
- 『刑法の時間』 2021.4 有斐閣 全 268 頁 佐久間修と共編著、岡部雅人、嘉門優、南由介、森永真綱と分担執筆 担当部分：総論第12話「正犯と共犯」

(100-108頁)、第13話「教唆・幫助と共犯をめぐる諸問題」(109-116頁)、コラム②「刑法の目的と機能」(117-118頁)、各論第14話「公務執行妨害罪、司法作用に対する罪」(224-232頁)、コラム④「暴行にもいろいろ」(233-234頁)

Ⅲ 分担執筆

『ブリッジブック 刑法の考え方』2009.3 信山社 全243頁 高橋則夫編(分担執筆者:川崎知巳、高橋則夫、中空壽雅、安田拓人) 担当部分:第4講義「刑法だけでは処罰できない——刑事実体法と刑事手続法」(35-47頁)、第11講義「未完成犯罪——未遂」(121-136頁)、第12講義「犯罪にかかわった複数の人をどう扱うか——共犯」(137-155頁)、第18講義「揺れる倫理と刑法——現代の犯罪と刑罰(その1)」(204-216頁)、小論文のすすめ(例題)

『ブリッジブック 刑法の考え方〔第2版〕』2014.3 信山社 全272頁 高橋則夫編 担当部分:第4講義(36-49頁)、第11講義(124-139頁)、第12講義(140-158頁)、第18講義(206-218頁)

『ブリッジブック 刑法の考え方〕〔第3版〕』2018.11 信山社 全272頁 高橋則夫編 担当部分:第4講義(36-49頁)、第11講義(124-139頁)、第12講義(140-158頁)、第18講義(207-219頁)

『刑法基本講義——総論・各論』2009.4 有斐閣 全582頁 佐久間修、上嶋一高と分担執筆 担当部分:総論2「刑法学の基本原理」(23-43頁)・8「緊急行為」(150-177頁)・11「正犯と共犯」(213-231頁)・12「共犯の諸問題」(233-252頁)、各論3「逮捕・監禁等の罪、略取・誘拐等の罪」(299-310頁)・5「窃盗の罪」(333-353頁)・6「盗品等に関する罪・器物損壊等の罪」(355-364頁)・10「放火の罪」(415-428頁)・14「公務執行妨害の罪」487-498頁)

『刑法基本講義——総論・各論〔第2版〕』2013.4 有斐閣 全600頁 佐久間修、上嶋一高と分担執筆 担当部分:総論2「刑法解釈・運用の基本原則」(23-43頁)・8「緊急行為」(161-196頁)・11「正犯と共犯」(215-234頁)・12「共犯の諸問題」(235-236頁)、各論3「逮捕・監禁等の罪、略取・誘拐等の

罪」(303-317頁)・5「窃盗の罪」(341-361頁)・6「盗品等に関する罪・器物損壊等の罪」(363-372頁)・10「放火の罪」(423-436頁)・14「公務執行妨害の罪」(499-513頁)

『刑法基本講義 総論・各論』[第3版] 2019.5 有斐閣 全580頁 佐久間修・上嶋一高と分担執筆 担当部分：総論2「刑法解釈・運用の基本原則」(21-40頁)・8「緊急行為」(149-167頁)・11「正犯と共犯」(201-220頁)・12「共犯の諸問題」221-241頁、各論3「逮捕・監禁等の罪、略取・誘拐等の罪」(287-301頁)・5「窃盗の罪」(325-345頁)・6「盗品等に関する罪・器物損壊等の罪」(347-356頁)・10「放火の罪」(407-419頁)・14「公務執行妨害の罪」(479-493頁)

IV 論説

「共謀共同正犯と行為支配論——団藤説を中心に——」1986.4 一橋研究11巻1号(一橋大学大学院学生会)31-44頁

「過失共同正犯の理論的基礎——『行為支配』と過失共働——」1987.11 一橋論叢98巻5号(一橋学会)144-158頁

「行為支配論の構造と展開」1988.7 一橋大学研究年報「法学研究」18号69-315頁

「結果的加重犯の共同正犯——「行為支配論」の観点から——」1989.1 一橋論叢101巻1号(一橋学会)19-38頁

「共同正犯の行為支配的構造と共謀共同正犯論」1990.7 一橋論叢104巻1号(一橋学会)60-68頁

「刑法における財物の意義——有体性説と管理可能性説——」1991.1 一橋論叢105巻1号(一橋学会)83-92頁

「目的的行為論と行為支配論」1993.11 『刑事法学の総合的検討(下)——福田平・大塚仁博士古稀祝賀——』(有斐閣)227-245頁

「刑事責任について——ひとつの考察の試み」1996.4 一橋論叢115巻4号(一橋学会)1-15頁

(206) 一橋法学 第21巻 第3号 2022年11月

- 「共同正犯における共同と事實的寄与——共同正犯の成立範圍に関する覚書」
1999.3 一橋大学研究年報「法学研究」32号 167-256頁
- 「正犯理論の實質的基礎——共謀共同正犯論を中心に」1999.6 現代刑事法2号
(現代法律出版) 13-28頁
- 「『承継的共同正犯』論の現在」2001.8 現代刑事法28号(現代法律出版) 69-
74頁
- 「刑法における違法性と社会的相当性」2001.11 『変動期における法と国際関係
(一橋大学法学部創立五十周年記念論文集)』(有斐閣) 235-259頁
- 「公共危険罪と危険概念」2002.1 現代刑事法33号(現代法律出版) 45-49頁
- 「自殺は違法か」2003.3 一橋法学2巻1号(一橋大学大学院法学研究科)
45-58頁
- 「虚偽告訴等の罪の保護法益と危険概念」2003.10 現代刑事法54号(現代法律
出版) 17-23頁
- 「不真正不作為犯における作為義務」2005.4 研修682号(誌友会研修編集部)
3-12頁
- 「『共謀共同正犯』概念再考——行為支配説に基づく制約論——」2006.6 『神山
敏雄先生古稀祝賀論文集第一巻 [過失犯論・不作為犯論・共犯論]』(成文堂)
389-403頁
- 「過失犯の共同正犯について」2010.5 研修743号(誌友会研修編集部) 3-12
頁
- 「不能犯論における危険の意義とその判断」2011.9 『村井敏邦先生古稀記念論
文集 人權の刑事法学』(日本評論社) 74-93頁
- 「『承継的共同正犯』について」2014.10 『川端博先生古稀記念論文集 [上巻]』
(成文堂) 579-601頁
- 「放火罪における『公共の危険]』」2016.6 研修816号(誌友会研修編集部) 3-
12頁
- 「法的因果關係に関する覚書」2016.7 一橋法学15巻2号(一橋大学大学院法
学研究科) 517-534頁
- 「共同正犯の構造把握」2018.10 『日高義博先生古稀祝賀論文集] [上巻] (成文

堂) 389-407 頁

「実行行為の開始と実行の着手——「構成要件の結果発生の危険」の意義 2019.

11 研修 857 号 (誌友会研修編集部) 3-14 頁

「危険性概念と確率的思考に関する試論」 2021.12 専修ロージャーナル No.17

31-45 頁

「共同正犯の主観的要件」 2022.3 『高橋則夫先生古稀祝賀論文集』[上巻] (成

文堂) 787-800 頁

V 講座・注釈・参考図書・教材等

「外国判決の効力」 1992.1 阿部純二ほか編『刑法基本講座』(法学書院) 第 1

巻 90-98 頁

「結果的加重犯の共犯」 1992.11 阿部純二ほか編『刑法基本講座』(法学書院)

第 4 巻 153-162 頁

「共同正犯」 1995.6 西原春夫・新倉修・山口厚・井田良・松宮孝明編『刑法マ

テリアルズ——資料で学ぶ刑法総論』「VI 犯罪の成立を拡張する事情②」

(柏書房) 397-417 頁

「正犯と共犯——共謀共同正犯・間接正犯」(特集・判例で学ぶ刑法) 1997.7

法学教室 202 号 (有斐閣) 42-44 頁

判例解説 (5 件) 1999.2 曾根威彦・日高義博編『基本判例 5 刑法総論』(法学

書院) 116-120 頁

判例解説 (5 件) 2006.7 曾根威彦・日高義博編『基本判例 5 刑法総論 第 2

版』(法学書院) 124-129 頁

「不作為犯と共犯」 2000.11 西田典之・山口厚編『刑法の争点第 3 版 (ジュリ

スト増刊)』(有斐閣) 118-119 頁

「行使の意義」 2000.11 西田典之・山口厚編『刑法の争点第 3 版 (ジュリスト

増刊)』(有斐閣) 234-235 頁

辞典項目 2003.3 三井誠・町野朔・曾根威彦・中森喜彦・吉岡一男・西田典之

編『刑事法辞典』(信山社) 執筆項目「拡張的正犯概念」「間接正犯」「故意あ

- る道具」「行為支配」「自手犯」「制限的正犯概念」「道具理論」「離隔犯」
「犯罪共同説と行為共同説」 2007.10 西田典之・山口厚・佐伯仁志編『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ2、ジュリスト増刊)』(有斐閣) 98-99頁
「行使の意義」 2007.10 西田典之・山口厚・佐伯仁志編『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ2、ジュリスト増刊)』(有斐閣) 240-241頁
コンメンタール解説「放火及び失火の罪」「出水及び水利に関する罪」 2007.4 伊東研祐・松宮孝明編『学習コンメンタール刑法』(日本評論社) 184-201頁
参照条文・判例要旨の選択・執筆『ぎょうせい現行六法』(ぎょうせい) 2010.3 編集代表・園部逸夫・大森政輔 担当部分：刑法編(Ⅲ-1、p.3-52)
コンメンタール解説 2012.9 浅田和茂・井田良編『新基本法コンメンタール刑法』(別冊法学セミナー 219号)(日本評論社) 第1編第9章併合罪前注(147-148頁)、第54条・第55条(156-160頁)、第236条-第239条(532-538頁)
コンメンタール解説 2017.9 浅田和茂・井田良編『新基本法コンメンタール刑法』[第2版](別冊法学セミナー 250号)(日本評論社) 分担部分：第1編第9章併合罪前注、第54条・55条；第36章窃盗及び強盗の罪第236条-239条
コンメンタール解説 2013.3 伊東研祐・松宮孝明編『新・コンメンタール刑法』(日本評論社) 執筆項目：第2編第9章放火及び失火の罪(208-224頁)、第10章出水及び水利に関する罪(225-227頁)
コンメンタール解説 2021.1 松宮孝明・金沢真理編『新・コンメンタール刑法』[第2版](日本評論社) 執筆項目：第2編第9章放火及び失火の罪(210-226頁)、第10章出水及び水利に関する罪(227-229頁)
「刑法授業を効果的に利用するために」 2013.4 法学教室 392号 14-18頁。特集「法科大学院での学び方、第1部授業に慣れよう」のⅢ
「法科大学院における刑法教育Ⅴ共犯」 2017.4 法学教室 442号 34-38頁

VI 判例評釈・解説

- 「県議会委員長が休憩宣言をした後の公務執行妨害罪の成否」 1990.2 法学教室

- 113号付録「判例セレクト'89」(有斐閣) 38頁 最決平成元・3・11刑集
13・3・188
- 「片面的幫助」 1991.4 平野龍一・松尾浩也・芝原邦爾編「刑法判例百選Ⅰ総論
〔第3版〕」(有斐閣) 176-177頁 東京地判昭和63・7・27判時1300・153
- 「凶器の意義」 1992.4 平野龍一・松尾浩也・芝原邦爾編「刑法判例百選Ⅱ各論
〔第3版〕」(有斐閣) 20-21頁 最判昭和47・3・14刑集26・2・187
- 「共同正犯が成立する場合における過剰防衛の成否」 1993.6 「平成四年度重要
判例解説(ジュリスト増刊)」(有斐閣) 166-167頁 最決平成4・6・5刑集
46・4・245
- 「片面的幫助」 1997.4 松尾浩也・芝原邦爾・西田典之編「刑法判例百選Ⅰ総論
〔第4版〕」(有斐閣) 172-173頁 東京地判昭和63・7・27判時1300・153
- 「凶器の意義」 1997.5 松尾浩也・芝原邦爾・西田典之編「刑法判例百選Ⅱ各論
〔第4版〕」(有斐閣) 18-19頁 最判昭和47・3・14刑集26・2・187
- 「コントロールド・デリバリーと間接正犯既遂の成否」 1999.3 法学教室222号
付録「判例セレクト'98」(有斐閣) 28頁 最決平成9・10・30刑集51・9・
816
- 「いわゆるパソコンネットの開設・運営者がホストコンピュータのハードディス
ク内にわいせつ画像データを記録・蔵置し、電話回線を使用してこれをダウン
ロードさせるようにした場合にわいせつ物公然陳列罪の成立を認めた事例」
2000.9 現代刑事法17号(現代法律出版) 79-84頁 大阪高判平成11・8・
26判時1692・148
- 「不作為による幫助——作為義務を肯定した事例」 2001.6 「平成12年度重要判
例解説(ジュリスト増刊1202)」(有斐閣) 148-149頁 札幌高判平成12・3・
16判時1711・170、判タ1044・263
- 「間接正犯における実行の着手」 2003.4 芝原邦爾・西田典之・山口厚編「刑法
判例百選Ⅰ総論〔第5版〕」(別冊ジュリスト166)(有斐閣) 130-131頁 大
判大正7・11・16刑録24・1352
- 「共同加害の意思」 2003.4 芝原邦爾・西田典之・山口厚編「刑法判例百選Ⅱ各
論〔第5版〕」(別冊ジュリスト167)(有斐閣) 14-15頁 最2判昭和52・

5・6 刑集 31・3・544

「行政措置の不作为と収賄罪における職務関連性——リクルート事件文部省ルート」 2004.3 法学教室 282号別冊付録「判例セレクト2003」(有斐閣) 36頁
最2 決平成 14・10・22 刑集 56・8・690

「不正融資の借り手側の責任」 2004.6 『平成15年度重要判例解説(ジュリスト増刊1269号)』(有斐閣) 173-174頁 最3 決平成 15・2・18 刑集 57・2・161

「公園内の公衆便所の外壁にラッカーズプレーでペンキを吹き付け「戦争反対」等と大書した行為が、刑法260条前段にいう建造物の「損壊」に当たるとされた事例」 2007.4 刑事法ジャーナル7号(イウス出版) 52-57頁 最3 決平成 18・1・17 刑集 60・1・29

「県立医科大学教授兼同大学付属病院診療科部長が医局に属する医師を他の病院へ派遣する行為につき賄賂罪における職務関連性が認められた事例」 2007.5 判例評論579号(判例時報1959号)(判例時報社) 42-46頁 最2 決平成 18・1・23 刑集 60・1・67

「幫助の因果性」 2008.2 西田典之・山口厚・佐伯仁志編「刑法判例百選I総論〔第6版〕」(別冊ジュリスト189)(有斐閣) 178-179頁 東京高判平成 2・2・21 判タ 733・232

「横領罪における不法領得の意思(1)」 2008.3 西田典之・山口厚・佐伯仁志編「刑法判例百選II各論〔第6版〕」(別冊ジュリスト190)(有斐閣) 128-129頁 最3 判昭和 24・3・8 刑集 3・3・276

「用途を限定して預金口座に振り込まれた前払金を用途を偽って払出し別口座に入金させた行為に詐欺罪の成立を肯定した事例」 2008.4 「平成19年度重要判例解説」(ジュリスト1354号・臨時増刊)(有斐閣) 179-180頁 最2 決平成 19・7・10 刑集 61・5・405

「けん銃所持の共謀」 2011.4 「平成22年度重要判例解説」(ジュリスト臨時増刊1420号) 204-205頁 最2 判平成 21・10・19 判時 2063・155

「共同正犯と幫助犯(1)」 2014.8 山口厚・佐伯仁志編「刑法判例百選I総論〔第7版〕」(別冊ジュリスト220)(有斐閣) 156-157頁 最1 決昭和 57・7・16 刑集 36・6・695

- 「用途を定めて寄託された金銭の他人性」 2014.8 山口厚・佐伯仁志編「刑法判例百選Ⅱ各論〔第7版〕」(別冊ジュリスト221)(有斐閣) 128-129頁 最2判昭和26・5・25刑集5・6・1186
- 「詐欺に気づいた被害者が模擬現金入り荷物を発送した後荷物受領依頼を受ける行為と詐欺罪の共同正犯」 2017.4 「平成28年度重要判例解説」(ジュリスト1505号・臨時増刊)(有斐閣) 164-165頁 名古屋高判平成28・9・21 LEX/DB25544184、判時2363・120
- 「共同正犯と幫助犯(1)」 2020.11 佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選Ⅰ総論』〔第8版〕(別冊ジュリスト250)(有斐閣) 156-157頁 最1決昭和57・7・16刑集36・6・695
- 「用途を定めて寄託された金銭の他人性」 2020.11 佐伯仁志・橋爪隆編『刑法判例百選Ⅱ各論』〔第8版〕(別冊ジュリスト251)(有斐閣) 130-131頁 最2判昭和26・5・25刑集5・6・1186

Ⅶ 翻訳・コメント・書評・紹介等

- 「『行為支配論』の構造と展開」橋本正博(一橋大学研究年報・法学研究18号)〔現代刑事法学の視点〕への原著者コメント 法律時報(日本評論社)62巻4号 93-97頁
- 福田平先生——「人と学問」1987.11 一橋論叢98巻5号 一橋大学 1-6頁
- 西ドイツにおける刑事弁護制度改革の動向について(四)(証拠開示・接見交通等)最近の外国刑法事情(79)1989.4 西ドイツ刑事弁護制度研究会・刑法読書会名義の記事(分担執筆)警察研究60巻4号 良書普及会 65-70頁
- 「刑法における意思自由論と責任論——都築廣巳『法における『主体・意思自由』の意味論——構成主義的認知科学の視座におけるオートポイエーシス・システム理論的アプローチ——』に対して」(反論と意見)1997.11 ホセ ヨンバルト・三島淑臣・笹倉秀夫編『法の理論17』215-219頁
- 「ルーマン理論の社会理論的位置づけと法解釈学——池田貞夫『ルーマン理論の限界——人間不在の社会理論——』に対して」(反論と意見)1997.11 ホセ

(212) 一橋法学 第21巻 第3号 2022年11月

- ヨンパルト・三島淑臣・笹倉秀夫編『法の理論17』 221-224頁
書評「林幹人『刑法各論』」(「法教 Bookshelf」) 2000.2 月刊法教 233号 137頁
- 平成12年度・司法試験2次〈新〉考査委員のプロフィール② 刑事訴訟法担当
宮城啓子先生 2000.5 受験新報 (法学書院) 591号 52頁
- 資料「一九八九年イギリス刑法典草案——条文訳出と解説」第六章 犯罪の当事者(一) 2002.1 法学志林 89巻2号(683号) 法政大学法学志林協会 72-80頁 監修 村井敏邦
- 書評「島田聡一郎著『正犯・共犯論の基礎理論』」 2002.11 現代刑事法 43号 98-99頁
- 書評「渡部保夫『刑事裁判を見る眼』」 2003.8 HQ1号(一橋大学) 56頁
- 座談会「法の日本語」と法学教育(上)——『日本法への招待』の刊行をめぐって 2004.6 書齋の窓 535号(有斐閣) 2-13頁 杉浦一孝・野村豊弘・青木人志・三枝玲子・橋本正博・松本恒雄
- 座談会「法の日本語」と法学教育(下)——『日本法への招待』の刊行をめぐって 2004.8 書齋の窓 536号(有斐閣) 2-11頁 杉浦一孝・野村豊弘・青木人志・三枝玲子・橋本正博・松本恒雄
- 「なぜ『社長の犯罪』は認められないのか」 2018.7 如水会々報 6-9頁 第443回一橋大学開放講座(2018年4月9日如水会館)での講演録
- 「福田平先生を偲ぶ」 2019.5 『刑事法ジャーナル』60号 100-103頁
- 「講演：私的刑法学——常識を疑い、常識を守る——」 2019.11 一橋法学 18巻3号 1-25頁 2019年1月22日一橋大学での「最終講義」の記録
- 「正犯とは何かを問いつつ」〈新所員研究紹介〉 2020.2 専修大学法学研究所所報 60号 41-47頁
- 自著を語る『刑法の時間』 2021.7 書齋の窓 676号(有斐閣) 29-33頁

VIII 学会報告等(口頭)

「行為支配論からみた正犯・共犯論上の諸問題」 1992.5.16 日本刑法学会第70

回大会（於・獨協大学） 個別研究報告

「正犯概念について——共同正犯論を中心に」 1998. 5. 24 日本刑法学会第 76 回大会（於・大阪市立大学） ワークショップ「共犯論」における話題提供

「正犯性——間接正犯と共同正犯の間」 2003. 5. 25 日本刑法学会第 81 回大会（於・日本大学） ワークショップ「正犯性」のオーガナイザー 刑法雑誌（日本刑法学会） 43 巻 3 号 523-526 頁に記事執筆

「『共謀共同正犯』概念再考——行為支配説に基づく『共謀共同正犯』制約論の立場から」 2005. 6. 19 日本刑法学会第 83 回大会（於・北海道大学） ワークショップ「正犯論」における話題提供

このほか、一橋大学公開講座、平成 11 年秋季（1999. 9. 25-10. 23）「犯罪と刑罰の比較法」、同 平成 18 年秋季（2006. 9. 30-10. 28）「インターネットと法」を担当した。また、「法学未修者教育の改善に向けて——効果的な教育手法」のパネリスト（2019. 3. 2 第 11 回法科大学院教員研究交流集会全体会、日本弁護士連合会、於・弁護士会館）を務めた。